

平和都市に笑顔の傘咲く、あす長崎原爆忌

長崎は9日、65回目の原爆忌を迎える。長崎市の平和公園では午前10時35分から、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が開かれる。式典には、核保有国のイギリスとフランスの代表が初めて参加する。海外からの参加は過去最多の32か国となる見通し。国際原子力機関（IAEA）の天野之弥事務局長が被爆65年の節目に合わせ献花を行う。菅首相も参列する。

また、この1年間に亡くなったり、死亡が確認されたりした3114人分の長崎原爆死没者名簿3冊が奉安箱に納められ、原爆投下時刻の午前11時2分に黙とうする。

田上富久市長は「長崎平和宣言」の中で、5日に初めて長崎を訪問した国連の潘基文(パンギムン)事務総長が進めようとしている「核兵器禁止条約」を支持する考えを示す。さらに、5月の核拡散防止条約（NPT）再検討会議で、核軍縮の期限設定に反発した核保有国の姿勢に対する危機感を表明する方針。



長崎原爆忌を前に、世界の子どもたちの笑顔をプリントした傘約100本をさして平和を訴える「メリー・アンブレラ・プロジェクト」が7日、長崎市の平和公園や浦上天主堂前で行われた。

NPO法人「メリー・プロジェクト」（水谷孝次代表、東京都）が企画し、学生ら約150人が参加。傘には、同時テロ後の米・ニューヨークや大地震で被害を受けた中国・四川省など26か国の子どもたちの顔写真を印刷。照りつける太陽の下、学生たちは傘を一斉に広げて行進するなどし、通行人や観光客にアピールした。

（2010年8月8日 読売新聞）

写真の拡大



青空の下、浦上天主堂前に並んだ子どもたちの笑顔の傘（7日午後2時36分、長崎市で）＝貞末ヒトミ撮影